

# 事例研究報告

## 小学部低学年児童が 一人で自立課題に取り組むための 指導

# 児童・生徒の実態

- 小学部児童 知的障がい
- 学校での発語は「うん」「おはよ」「ありがとう」等少ない
- 活動を拒否する(顔を上に向けて舌を出す)こともある
- 注目獲得行動が非常に多い  
(教員の方を見ながらマスクを外す, 特定の教員を追いかける等)
- 「すごいね」等のポジティブなフィードバックに反応がない
- 自立課題に一人で取り組むことが難しい  
スキルとして獲得していても正答率が下がる  
何度もやり直す, 途中で諦めて終わる
- 自立課題のワークシステムが未習得  
かごの中身を変えると指示書通り(1→2→3)にできない  
課題を終えないまま次の課題にとりかかる

# 教員の願い

## 注目獲得行動の減少

- 注目されていなくても, 課題に取り組む
- 適切な行動を増やす

## ワークシステムの獲得

- 指示書(1→2→3)の通りにかごをとる
- 課題を全て終わらせてから次の課題へ

## 自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

- 一人で15分程度の課題に取り組む

# アドバイザーからの助言

## 注目獲得行動の減少

- 注目する回数を増やす
- 注目獲得行動が起こる前に, 注目する

## ワークシステムの獲得

## 自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

- 活動課題量や内容を調整し, 1課題5~10秒のできるもの(逸脱せずに取り組める量・内容)にする

# 助言を受けての見直し

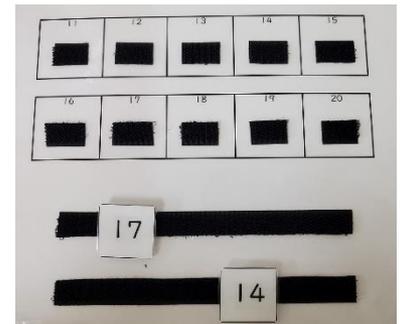
## 注目獲得行動の減少

- すでにできていることへの注目を増やす

## ワークシステムの獲得

## 自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

- 1つの課題量を減らし, 3種類×3セット (30秒以内でできるものに変更)
- できている時に声かけやジェスチャーでポジティブなフィードバックを行う
- 一人で3種類取り組めたら○カード  
→ 3枚貯まったらハイタッチで称賛



# 指導の手続き

## 注目獲得行動の減少

- 着替え, 連絡帳シール貼り等, できていることも見守る  
(声かけはせずに, 視線を合わせたり近くに居たりする)
- ポジティブなフィードバックに対する反応の練習  
(言葉とジェスチャーをつなげる)

やったね



ないす



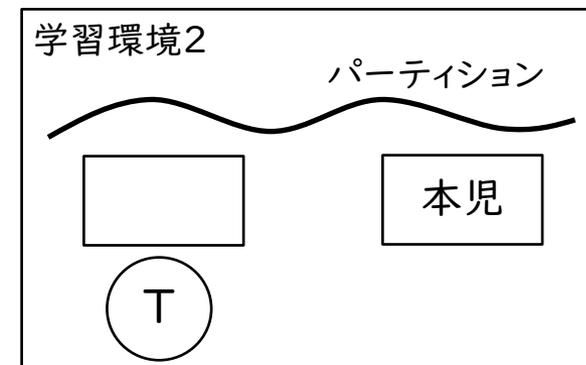
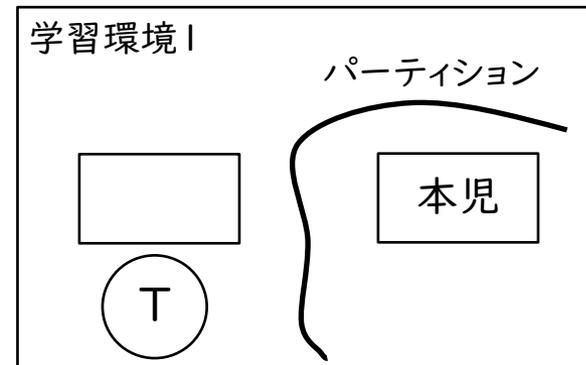
# 指導の手続き

ワークシステムの獲得

課題がスムーズに終われば時間が短くなる

自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

	課題数	パーティション	教員からの注目	学習環境
BL	3	あり	なし	1
介入①	3×3	なし	あり	2
介入②	3×3	なし	なし	2
介入③	3×3	あり	なし	1



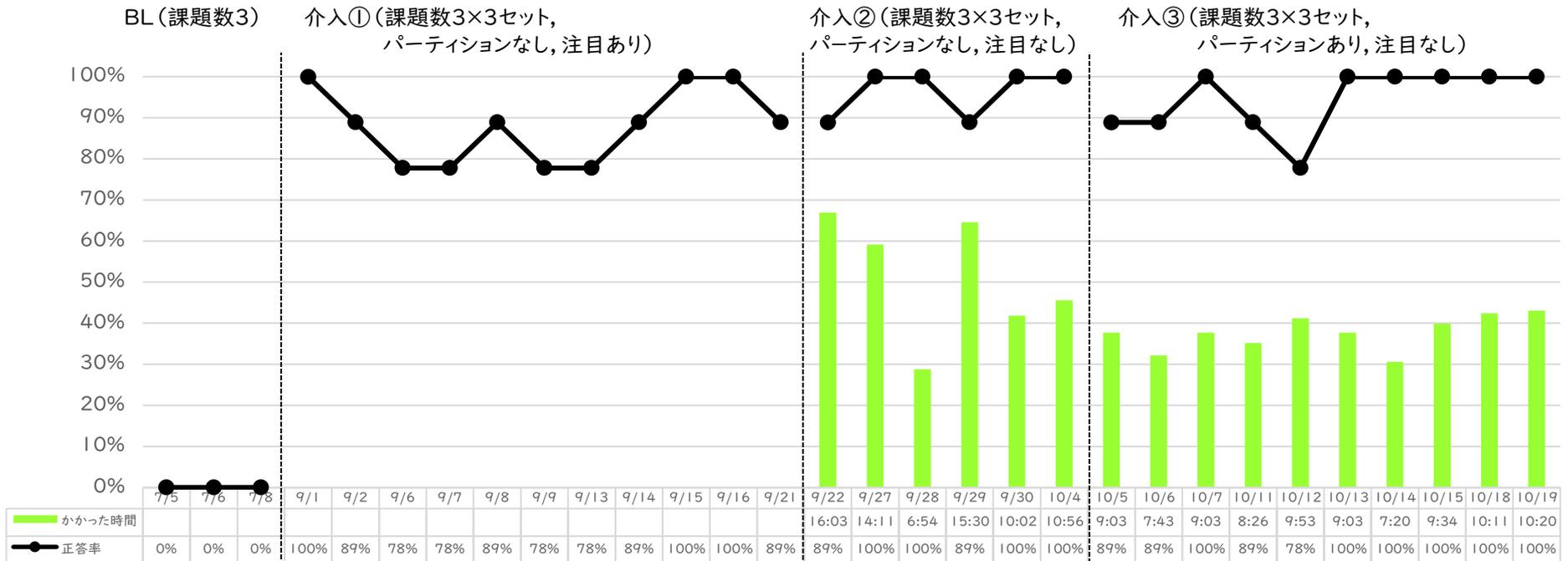
# 記録方法と記録

ワークシステムの獲得

自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

【標的行動】自立課題中に一人で正しく課題ができる

【記録】自立課題中に一人で正しくできた課題の割合  
自立課題に取り組んだ時間



# 指導の成果

## 注目獲得行動の減少

- 一人で活動に取り組むことが増えた
- ポジティブなフィードバックを行うと自らジェスチャーで応えたり, 上手くいったことに対して自分からナイスポーズをして, 「ナイス」と言ってもらったりすることが増えた

## ワークシステムの獲得

## 自立課題に一人で取り組む時間を延ばす

- 指示書の通りに課題に取り組むようになった
- 課題量や内容を変えても10~15分程度課題に取り組むことができるようになった

# ここが成功のポイント

- 自立課題以外の場面で多く関わり注目を増やしたこと
- スモールステップで課題設定を行い、「確実にできること」から始めたこと
- 適切な行動のあとに、毎回フィードバックを行ったこと

## 現在の様子

- 3種類×2セット(1~2分でできるもの)
- ○カードなし
- 教員からの注目なし
- パーティションなし

